

地唄について 江戸時代の三味線音楽の発達には目覚ましいものがありました。三味線音楽の中でも、個人の住宅の座敷で演奏されてきたものが「地唄」です。特定の観客に向けサロンで演奏される室内楽と申せましょうか、地唄は、畳、木と紙の障子、土壁の部屋の中で、暮夜には、またたく蠟燭の灯影で演奏されました。主に関西を中心に発達、演奏のスタイルとしては、演奏者が一人で唄い、三味線を弾く弾き唄いの形が普通です。琴、胡弓の伴奏が入る場合もあります。

舞について 日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があります。「舞」は14世紀に現在の様式の礎を確立したといわれる「能」の動きにも見られるように、舞台を巡り旋回する動きを指します。「踊」は17世紀に興った「歌舞伎」を基本として、解放的に跳躍する動きを呼びます。この「舞」を地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」です。関西を中心に発達し、特徴は少ない動きとゆったりとした間合いで、その「こころ」を表現することが挙げられます。神崎流は、初代が大阪から東京に移り創流、その後四代目神崎えんまで引き継がれた、東京で生まれたただ一つの地唄舞の流儀です。

地唄舞研究会 2014年に渡辺保先生奥山緑様のご協力で、地唄舞の曲を皆様とご一緒に勉強研究し、鑑賞とご理解頂く事を目指し渡辺先生の講演を中心にはじまりました。別会は少し違うテーマで地唄舞の周辺のことなどを取り上げて参りたいと思います。



日時 平成三十年五月十三日（日）
十四時開始十六時終了予定
場所 京懐石 柿傳 6F 古今サロン
新宿区新宿 3-37-11 安与ビル
電話 03-3352-5121

会費 一般 3000 円、会員 2000 円
学生 1500 円

お申し込みは下記 FAX 用紙をそのままお
使い頂くか、メール／電話にても受け付
けております

第三回別会お申し込み用紙

FAX 03-3405-7190

本用紙でお申し込みの場合は当日会場に本紙をご持参くださいませ。

お名前（ふりがな）

日中ご連絡のつくお電話番号、メールアドレス